

7月7日は七夕。例年、利用者さん全員に「短冊」を書いてもらいます。

直筆の短冊は、一年後には貴重なものになっていることがあり、ご家族に渡すと喜ばれます。字を書くことが難しい方はご家族に頼み、願いを代筆してもらいました。

女社長だったYさんは「なんて書こうか」と悩み、「お店の繁栄を願ってはどうですか」という職員のアドバイスを聞いて「商品の評判、最高です。以後頑張りますのでよろしく」と書かれました。

それを見たAさん、「願い事にそんなこと書くなんて馬鹿じゃ！」と辛口。

では自分はどうと、「美しいわがふるさとありがとう」。

手前勝手ですが、90を超えて個人的な欲望は優先されず、全人類的な視点になるのかも。Yさんは生涯現役ですが…

半紙でこよりを作り、自分の短冊を吊るしました。願いよ、星に届け～



またある日は庭の草引きを一同で行いました。

長梅雨で伸び放題の雑草。環境班リーダーの森本さん、利用者さんと駆除に出掛けます。キュウリやトマトが鈴なりの「森本農園」にも草がはびこっています。

暑い中、一生懸命に働く利用者さんはほとんど90代。労働の後は自家製梅ジュースでのどの渴きを潤します。

そう、吾も紅は娯楽だけでなくともに汗を流すのです。



さて、今年の夏はコロナ禍で地区の祭りも、ともの家全体の夏祭りも中止となり、寂しい限りです。

ならば、事業所でこぢんまりと行おう！と「吾も紅祭り」を企画しました。

出店は焼きそばとかき氷にジュース。夕涼みがてら外で食べることにしました。するとそのことを聞きつけたボランティアのRさんが特製カレーを差し入れてくれるとのこと。元理事長からもらったスイカも出すことにしました。

当日は、利用者さんと焼きそば作り。また利用者さんとかき氷用の氷も取りに行きます。アンジュールともの家からT君が応援に来てくれて、子どもと一緒にかき氷を回してくれました。(カレーをつまみ食いしているのは誰だ!)元理事長も焼きそばを焼いてくれます。

職員は浴衣で盛り上げ。皆さん和気あいあいと楽しまれていました。

最後は皆で線香花火をし、ギターの弾き語りを聞いて夏の夕暮れを惜しみました。

やっと「梅雨明け」し、本格的な夏到来です。コロナ禍に負けず、今年も精一杯の思い出を作りたいと思います。

